

# 算数における感覚を豊かにするために (数について)

中央教育審議会の答申（ii）改善の具体的事項（85ページ）には、**小学校算数科**において「小学校においては、算数的活動を充実し、数量や図形について実感的に理解し豊かな感覚を育てながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、数学的な思考力・表現力を高めることや学んで身に付けた算数を生活や学習に活用することを重視して、次のような改善を図る。」とあり、次のように述べられています。

- (エ) **数についての感覚を豊かにすること**
- (オ) 量の大きさについての感覚を豊かにすること
- (カ) 図形についての感覚を豊かにすること

今回は、「**数についての感覚を豊かにすること**」についてです。

1年生のはじめに、数の合成・分解を学習します。これは、1つの数を2つの数に分解したり、2つの数から1つの数を合成したりします。その逆をしたりします。この学習は、たし算やひき算につながっていく大切な内容です。ところが、そのうちに1つの数を2つ以上の数で表すことが少なくなり、多面的に見る力が弱くなってしまふことがあります。

そこで、普段から次のように多面的に見ることを授業、朝の会等で習慣づけてははいかがでしょうか。

**\*単元名：東京書籍による**

## ① 1つの数を2つ以上の数で表す！

2つ以上の数を使って、和、差、積、商を求めることは、していますが、その逆である1つの数を2つ以上の数の和、差、積、商を使って表すことはあまりないと思われます。



今日は、8月24日なので

「24」をほかの数で表してみましょう

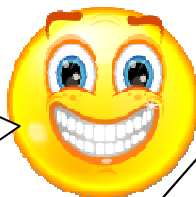
$$24 = 30 - 6$$
$$24 = 20 + 4$$

例：第1学年

単元名「20よりおおきいかず」

例：第2学年

単元名「たし算のしかたをかんがえよう」の授業で



24は、10のかたまりが、2つ  
1が4つ

例：第2学年

単元名「計算のしかたをくふうしよう」の授業で

このように位ごとに分けて表す考え方は、今後の「数と計算」の場面で活用できると思われます。

## ②大きな数を数えてみる！

50年前でしたら、1,000円も大金でしたが最近では、1,000円でも大金と感じない子どももいるのではないのでしょうか。つまり、1000という数がどれだけ大きいか実感できない時代になってきたように思います。

そこで、子どもたちには1000が、どれだけ大きいか、1枚の紙を数えさせるなど実感させたいものです。

例：第2学年

単元名「100より 大きい数を しらべよう」の授業で



## ③およその数で表す！

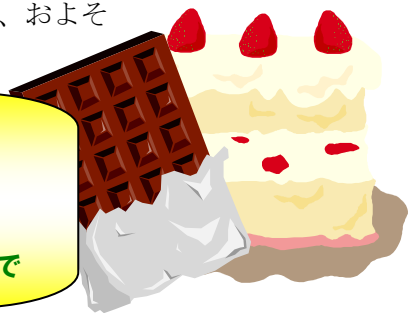
概念の意味や四捨五入などは、4年生で学習しますが、1年生のときから「18は、およそ20」「100円持っていたら、35円のあめと58円のチョコが買える」など、およその数で計算することが大切です。



$28 \times 4$  は、およそ  
 $30 \times 4 = 120$  くらいになるはず！

例：第2学年

単元名「計算のしかたをくふうしよう」の授業で



## ④1つの数を多面的に見る！

「同じ大きさを表す分数があること」「整数や小数を分数で表すこと」「約数について理解すること」などを通して、数についての見方を広げることが大切です。

2 4 6 8 . . .

— — — — —

同じ大きさの分数はたくさんある！

3 6 9 12 . . .

例：第4学年 単元名「分数をくわしく調べよう」で

$\frac{2}{5}$   $\frac{7}{4}$

— —

0.5

1.8

など小数 $\leftrightarrow$ 分数でも表せる！

5 4

例：第5学年 単元名「分数と小数、整数の関係を調べよう」で

3の約数は、1,3の2つ。12の約数は1,2,3,4,6,12の6つ。

21の約数は1,3,7,21の4つ。

数が大きくなるほど約数も多くなると思ったら、そうじゃなかった！

例：第5学年 単元名「整数をなかま分けしよう」で

